

第4期

事業報告書（概要）

自 令和3年4月 1日

至 令和4年3月 31日

株式会社 南紀白浜エアポート

# 第4期 事業報告

(令和3年4月1日～令和4年3月31日まで)

## 1. 事業の概況

### (1) 事業の経過と成果

空港運営開始3年目となった今期も新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって昨年と酷似した状況となり、4月23日に再び緊急事態宣言が全国主要都市に発出される状況下でのスタートとなりました。

7月には4回目の緊急事態宣言が発出される中、東京オリンピックが開催され8月からは更に感染拡大が進み第5波と称される事態となりました。しかし、ワクチン接種率の上昇とともに9月に入ってから新規感染者数が急速な減少に推移したことで、10月には緊急事態宣言が解除され行動制限が一部緩和されました。これにより国内経済活動の再開が急速に進み始めましたが、新たに12月に国内で確認された感染力の強い変異種オミクロン株が、年末年始の大きな人流により1月初旬から急速に拡散することとなりました。

2月初旬には1日の新規感染者が全国で10万人、東京都、大阪府の都市圏では2万人を超える事態となり、まん延防止等重点措置の発出地域が何と36都道府県に及ぶ第6波と称される未曾有の事態となりました。

しかしながら3月に入ってから新規感染者数の急速な拡大が収まりを見せ始め、各地に発出されていたまん延防止等重点措置も段階的に解除され3月21日をもってすべての地域で解除されることとなりました。

当空港においても3月からは、定期便もほぼ通常運航となり搭乗予約数もコロナ前の需要を取り戻しつつある状況となりました。

このようなコロナ禍影響下での今期ではありましたが、各種事業への積極的な取り組みを行い、特に空港DX事業におけるドライブレコーダーを活用した滑走路点検では、インフラメンテナンス大賞（国土交通大臣賞）を受賞し一定の成果を上げることができましたので、今後は他空港への売り込み等を主目的とした本格事業化に向けての大きな足掛りを得ることができました。

その他の空港DXでの主な取り組みとして3D-LiDARを活用した滑走路上の異物検知、当空港を起点としてのローカル5Gの構築、保安検査支援を行うAI技術の実証、空港脱炭素等の取組も行いました。

営業関連の主な事業では、ワーケーションの観光庁「新たな旅のスタイル」でのモデル地域とアドバイザーとしての共同事業、和歌山県のワーケーション促進事業、観光庁域内連携促進事業等を実施し、地域DXでは顔認証の機能拡大や観光庁の周遊アプリ開発に協力企業として参加、地域連携では紀南エリアサイクルツーリズム協議会を地元4町+空港で発足、南紀白浜ビジョン会議、防災備蓄最適化プロジェクトの地元3町+空港の取組やホップを通じたコミュニティづくりの空港ホッププロジェクト等を展開しました。

以上の結果により、当期南紀白浜空港の国内線旅客は、定期便で140,201人(前年比55,046人増)、チャーター便で1,476人(同784人増)となり、旅客数合計では141,677人(同55,830人増)と、旅客数は大幅に回復し、当期業績としましては事業計画を上回ることができました。

当期業績としましては、空港事業での収入は 356,440 千円、ターミナルビル事業収入

は 115,764 千円、任意事業での収入は 33,385 千円となり、営業利益は 45,908 千円、営業外損益及び特別損益を算入した結果、当期純利益 50,253 千円を計上いたしました。

**(2) 設備投資の状況**

空港受入環境高度化支援ウィズコロナ補助事業により搭乗待合室の拡張工事、1階到着ロビーの警察派出所移設工事、ロビー、搭乗待合室の空調更新工事を実施

**(3) 資金調達の状況**

該当事項はありません。

**(4) 重要な企業結合等の状況**

該当事項はありません。

**(5) 直前3事業年度の財産および損益の状況**

区分	平成31年度 第2期	令和2年度 第3期	令和3年度(当期) 第4期
営業収益(千円)	495,868	470,119	505,590
当期純利益(千円)	31,324	48,397	50,253
1株当たり当期純利益(円)	1,392	2,150	2,233
純資産(千円)	401,021	449,418	499,672
総資産(千円)	748,705	786,970	830,686

**(6) 対処すべき課題**

昨年に引き続き、重大事故、事案の発生ゼロを目標とし、日頃より役職員から安全情報の収集を行い、安全・保安維持に努めております。また、コロナ禍終息後の定期便搭乗旅客の回復に向けて営業活動を鋭意努めてまいります。

**(7) 重要な親会社および子会社の状況**

親会社の状況

当社の親会社は株式会社経営共創基盤であり、同社は当社の議決権株式を 93.33%保有しています。

**(8) 主要な事業内容**

南紀白浜空港特定運営事業等に関する一切の業務

**(9) 主要な事業所**

本社 和歌山県西牟婁郡白浜町才野1622番地の125

**(10) 従業員の状況(令和4年3月31日現在)**

26名

(1 1) 主要な借入先の状況 (令和4年3月31日現在)

借入先：紀陽銀行 借入金残高 185,625千円

2. 会社の概況

(1) 株式に関する事項 (令和4年3月31日現在)

- ①発行可能株式総数 450,000株  
②発行済株式の総数 22,500株  
③株主数 3名

株主名	当社への出資状況	
	株式数	議決権数の割合
株式会社経営共創基盤	21,000株	93.33%
株式会社みちのりホールディングス	1,000株	4.44%
株式会社白浜館	500株	2.22%

(2) 会社役員状況 (令和4年3月31日現在)

①取締役及び監査役の状況

地位	氏名	担当及び他の法人等の代表状況等
代表取締役社長	岡田 信一郎	
取締役	富山 和彦	IGPIグループ会長
取締役	松本 順	(株)みちのりホールディングス代表取締役グループ CEO
取締役	中田 力也	(株)白浜館代表取締役社長
監査役	中村 久美子	(株)インターアクトジャパン代表取締役社長

②取締役及び監査役の報酬等の総額

区分	支給額
取締役及び監査役の報酬等の総額	18,240千円

(3) 会計監査人に関する事項

- ①名称 東陽監査法人  
②会計監査人の報酬等の額 3,600千円

## 貸借対照表

令和4年3月31日現在

【単位：千円】

	科 目	金 額
資産の部	流動資産	519,369
	固定資産	311,316
	合 計	<b>830,686</b>
負債及び純資産の部	流動負債	114,384
	固定負債	216,629
	株主資本	499,672
	資本金	100,000
	資本剰余金	125,000
	資本準備金	107,500
	その他資本剰余金	17,500
	利益剰余金	274,672
	その他利益剰余金	274,672
	(うち当期純利益)	( 50,253 )
	合 計	<b>830,686</b>

## 損益計算書

自 令和3年4月 1日

至 令和4年3月31日

【単位:千円】

科 目	金 額
営業収益	505,590
営業費用	459,682
<b>営業利益</b>	<b>45,908</b>
営業外収益	30,147
営業外費用	1,729
<b>経常利益</b>	<b>74,326</b>
特別利益	17,620
特別損失	17,620
<b>税引前当期純利益</b>	<b>74,326</b>
法人税等	24,072
<b>当期純利益</b>	<b>50,253</b>